

めざす児童生徒像

学校スローガン 【子どもが主役の学校】 学校教育目標 仲間と共によりよい社会を切り拓く資質・能力の確実な育成  
 目指す児童像 【じ】自分で考え行動する 【も】もっと良くなろうとする 【と】共に学ぶ 思いやる

※児童生徒結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
学校重点項目 (学校で設定)	子どもが主役の学校 目指す児童像	全項目80%以上達成	「子どもが主役」の学校づくりを目指し教育活動を行っている						
			【じ】児童は、自分で考え行動している。						
			【も】児童は、よりよくなろうと努力している。						
			【と】児童は、お互いの考えや思いを大切にしながら活動しようとしている。						
			集計						
重点項目 石川県共通	働き方や 業務の改善	全項目80%以上達成	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。						
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。						
			③ 気軽に相談できる環境が整っている。						
			④ ワークライフバランスが整っていると実感している。						
			集計						
小松市共通重点項目	学校研究	各項目80%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。						
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。						
			③ 児童が学習形態を判断・選択し、自己調整しながら学びを進めるための工夫をしている。						
			集計						
			④ 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。						
	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	①②③の項目で80%以上	② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている。						
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。						
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。						
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。						
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。						
			集計						
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント ①~③の項目が80%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。						
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。						
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。						
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)						
集計									
家庭学習	①②ともに80%以上	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方を校内で共通理解を図っている。							
		② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。							
		集計							

令和6年度小松市立荒屋小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>〈生徒指導の4つの視点を生かした学校づくりを通して、「自己指導能力」を育む〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活目標と道徳、特別活動等で系統的な指導をする。</li> <li>・生徒指導の4つの視点を教職員が共通理解、共通実践を行えるよう、チェック表で毎月ふり返る。</li> <li>・どの項目も80%以上になるよう、意識できるよう伝える。</li> <li>・生活目標や道徳で学んだ価値のよさを実感できるようにするために、諸問題が起きた時に、生活目標に関連させて指導するようにする。</li> </ul>		
特別支援教育	<p>〈児童の生活の様子や学習状況等の情報交換と個に応じた適切な支援〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気づき票により支援が必要な児童を把握し、校内委員会で支援の仕方を協議し、共通理解をする。</li> <li>・学習支援が必要な児童を把握し、特別支援教育支援員や通級教室と協力し、可能な限り必要な支援が行き届くようにする。</li> <li>・情報交流を密にし、必要な場合は校内委員会を開催したり専門相談につなげたりする。</li> </ul>		
道徳教育	<p>〈道徳性の涵養〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校重点指導内容をA主として自分自身に関する「希望と勇気、努力と強い意志」に設定する。日常的に学校生活の様々な場面でも取り上げて指導する。</li> <li>・保護者に道徳の授業を公開したり、保護者と児童が道徳の内容について共に考える機会を設定する。</li> </ul>		
読書教育	<p>〈読書の質的な向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用計画に基づいて各教科での調べ学習や並行読書として図書を活用し、様々な分類の本に親しむ機会を設定する。</li> <li>・「読書祭り」や「家庭読書」等、休み時間や家庭でも読書に親しめるような機会を設定する。</li> </ul>		
キャリア教育	<p>〈学校行事、学習活動と関連したキャリア教育の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、特別活動、総合的な学習の時間、生活科を軸として年間計画に沿って実施する。</li> <li>・行事や取組について、各学年や個々の実態に応じて「今よりも少し高く」を意識した目標をもたせる。めあてに対するふりかえりを活動後に確実にを行う。</li> </ul>		
保健安全教育	<p>〈自ら考え、健康で安全な行動をとろうとする態度の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの実態を踏まえた内容を学校保健委員会のテーマに設定し、児童自身が自分の健康について考え、改善していけるように活動を進めていく。</li> <li>・避難訓練3回（火災・地震・不審者）を行う。</li> <li>・集団下校訓練、交通安全教室を行う。</li> </ul>		
情報教育	<p>〈児童・教師がICTを活用する力の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一台端末の授業や家庭学習での有効活用を図ることで、発達段階に応じて学びの質を向上させる。</li> <li>・個別最適な学びの達成を目指し、自ら学習計画を立てたり思考を積み上げたりできるよう、児童・教師共に授業での日常的な活用を積み重ねる。</li> <li>・研修会を通して教師のICT活用指導能力を高める。</li> </ul>		
家庭・地域との連携	<p>〈家庭・地域とともに進める学校づくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの情報発信システムを工夫・活用し、スムーズに教育活動についての共有を図る。</li> <li>・校区の健全育成会議を中心にして、地域の諸団体・組織と連携を図り、教育活動に生かす。</li> </ul>		

学校関係者評価	
---------	--